平成 30 年度
宇部市ジュニアグローバル研修
派遣報告書

オーストラリア・ニューカッスル市
平成 30 年（2018 年）8 月 13 日～8 月 22 日

目　　次

◆　派遣者名簿 …… 3

◆　研修日程 …… 4

◆　派遣日程 …… 5

◆　活動日誌 …… 6

◆　派遣生徒報告

宇部フロンティア大学付属中学校　小倉美南 …… 11

慶進中学校　爲佐愛美 …… 12

常盤中学校　辻　唯花 …… 13

藤山中学校　塔野聖夏 …… 14

厚東川中学校　中村創真 …… 15

慶進中学校　西原百華 …… 16

厚東川中学校　野村尚伸 …… 18

厚南中学校　原田茉優 …… 19

宇部フロンティア大学付属中学校　松岡　理 …… 20

黒石中学校　山田怜奈 …… 21

◆　引率教諭報告

宇部市教育委員会　三原洋一 …… 23

楠中学校教諭　池田有紀子 …… 25

◆　資　　料 …… 27

派遣者名簿

派遣生徒

氏　名	性別	学校名	学年
小倉（おぐら）　美南（みなみ）	女	宇部フロンティア大学付属中学校	3
爲佐（ためさ）　愛美（まなみ）	女	慶進中学校	2
辻（つじ）　唯花（ゆいか）	女	常盤中学校	3
塔野（とうの）　聖夏（せな）	女	藤山中学校	3
中村（なかむら）　創真（そうま）	男	厚東川中学校	3
西原（にしはら）　百華（ももか）	女	慶進中学校	2
野村（のむら）　尚伸（ひさのぶ）	男	厚東川中学校	3
原田（はらだ）　茉優（まゆ）	女	厚南中学校	2
松岡（まつおか）　理（さとし）	男	宇部フロンティア大学付属中学校	2
山田（やまだ）　怜奈（れな）	女	黒石中学校	3

引率教諭

三原（みはら）　洋一（よういち）	男	宇部市教育委員会
池田（いけだ）　有紀子（ゆきこ）	女	常盤中学校教諭

研修日程

月日	曜日	行事
6 月 7 日	木	1800-2000 【ガイダンス】 @宇部市役所 2 階 第 1 会議室
6 月 23 日	土	1330-1700 【事前研修 #1】 @宇部市総合福祉会館 2 階 ボランティアセミナールーム（小） ・自己紹介 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション作成） ・アトラクション説明
7 月 14 日	土	1330-1700 【事前研修 #2】 @宇部市総合福祉会館 2 階 ボランティアセミナールーム（小） ・目標設定 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション練習） ・アトラクション練習
7 月 31 日	火	1330-1700 【事前研修 #3】 @宇部市役所 4 階 委員会室 ・ワークショップ "紹介したい宇部市の魅力"（宇部市 PR プレゼンテーション練習） ・アトラクション練習 ・英会話レッスン
8 月 10 日	金	1400-1500 【壮行会リハーサル】@宇部市役所 4 階　委員会室 1500-1600 【壮行会】 @宇部市役所 4 階 委員会室 ・各自の目標発表 ・宇部市 PR プレゼンテーション披露 ・引率者挨拶 1600-1700 【事前研修　#4】@宇部市役所 4 階　委員会室 ・最終確認
8 月 13 日	月	宇部市発
8 月 22 日	水	宇部市着
8 月 24 日	金	1300-1700 【事後研修】@宇部市総合福祉会館 2 階 ボランティアセミナールーム（小） ・自己評価 ・ワークショップ "ジュニアグローバル研修の成果"
8月28日	火	1400-1500 【帰国報告会】@宇部市文化会館 2 階 研修ホール ・主催者挨拶 市長、友好協会会長 ・帰国報告 引率教諭 ・派遣生徒による報告 1500-1600 【座談会】@宇部市文化会館 2 階 研修ホール

派遣日程

月日	曜日	行事	宿泊
8月13日	月	・山口宇部空港発（NH700） ・羽田空港着 ・羽田空港発（NH879）	機内
8月14日	火	・シドニー空港着 ・自治体国際化協会シドニー事務所・日本政府観光局訪問 ・セントラル駅発 ・ブロードメドウ駅着	ホームステイ
8月15日	水	・ハイスクール通学 ・市長表敬訪問（プレゼンテーション発表）	ホームステイ
8月16日	木	・ハイスクール通学 ・農場見学	ホームステイ
8月17日	金	・ハイスクール通学 ・ニューカッスル大学ランゲージセンター通学	ホームステイ
8月18日	土	・ホストファミリーとオーストラリアの生活体験	ホームステイ
8月19日	日	・ホストファミリーとオーストラリアの生活体験	ホームステイ
8月20日	月	・ハイスクール通学 ・送別会	ホームステイ
8月21日	火	・ブロードメドウ駅発 ・セントラル駅着 ・シドニー空港発（NH880）	機内
8月22日	水	・羽田空港着 ・羽田空港発（NH693） ・宇部空港着	-

活動日誌

8 月 13 日　担当：小倉美南

いよいよオーストラリアへ出発。羽田空港で最後の日本食を食べようと思ったけれど、マルゲリータを食べた。すると、そこにはラグビー日本代表の田中史郎選手がいた。一緒に写真を撮ることができて私の興奮は最高潮に達した。少し不安を抱きつつも、とてもわくわくしていた。私はまだ一度もホストファミリーと連絡が取れていないのではやく会って色々な話をしたい。国際線はすでに沢山の外国人がいて英語が聞こえてきた。アナウンスも英語だ。今はまだ聞き取れないけれど、帰ってきたときにはしっかり聞き取れるように頑張りたい。

8 月 14 日　担当：辻　唯花

９時間の長いフライトを終え、私たちは現地時間の１０時頃にシドニー空港に到着した。そのあと、すぐに自治体国際化協会シドニー事務所へ行った。オーストラリアのこと、海外で働くことの意義について話を聞いた。その中で私は何事も諦めなければ絶対に大丈夫だということを学んだ。そして、国際交流から生み出される利点などについても教わった。改めて自分が派遣生としてオーストラリアに来れた喜びと使命感を感じることができた。

研修が終わってからすぐに昼食をとった。初めて海外のフードコートに入った。多文化社会のため様々な国の人がいた。私は、少し怖いと感じた。

昼食後、セントラル駅から電車に乗った。二階建ての電車で、乗客も多かった。一駅手前で降りてしまったが、無事ブロードメドウ駅に着いた。ドアを出るとすぐにホストファミリーが温かく迎えてくれた。車に乗ってはじめはすごく緊張したが徐々に会話にも慣れていった。ホストシスターがサッカーをしていたから迎えにいった。みんな、色々と声をかけてくれて嬉しかった。ホストファミリーがとても優しく丁寧にたくさんのことを教えてくれた。話のスピード感にはじめは全くついていけなかったけれど、話のカギとなる部分は聞き取れるようになった。

8 月 15 日　担当：爲佐　愛美

今日は、７時にホストマザーに起こしてもらいました。それからパリスと一緒に朝食を食べました。朝食はオーストラリアで有名なベジマイトを食べました。濃い醤油を食べた感じで、あまり好きではありませんでした。その後、制服に着替えました。

学校で驚いたことは、授業に平気で遅れてくる生徒が多いということです。他にもテーブルの上に座ったり、先生が話しているのに足を机の上に置いたりする人もいました。２時間目が終わると市役所に行きました。市役所は大学の外観に似ていると思いました。中も日本の作りとは大変違いました。

夕方、私もパズもバレエを習っているとのことだったので一緒にレッスンを受ける予定だったけれど、その日は進級テストだったようでイスに座って見ていました。日本のバレエではテクニックを重視しますが、オーストラリアのバレエはどのようにしたらお客さんに見てもらえるかなどを重視していました。

その後は日本食を食べに回転すしに行きました。１皿２ドル～８ドルでした。私はかつ丼を食べました。おいしかったです。

犬のレジェンドもかなりなついてくれました。

8 月 16 日　担当：西原　百華

オーストラリア３日目。だんだんオーストラリアの生活も慣れてきた。学校生活はまだ不安な部分も多いが、Mikari について行って分からないことは積極的に質問していこうと思った。

今日は、オークベール農場を訪れた。「農場」と聞いていたから、どんなところかとても不思議だったが、行ってみると普通の動物園だった。日本ではあまり動物園には行かず休日は買い物ばかりだったのでとてもワクワクした。オーストラリアと言えば、やっぱりコアラとカンガルー。どちらも見たことがなかったから初めて見たときは、とてもかわいくて興奮した。今日は、コアラを抱くことができなかったが、２ショットを撮れて良かった。カンガルーも餌やりができて、とても貴重な体験だった。オーストラリアならではのものを自らどんどん体験していこうと思った。

8 月 17 日　担当：野村　尚伸

今日の１時間目は英語。これが非常に難しく訳が分かりませんでした。頑張って翻訳すると「コンベアがハミングしている」となり、余計に分からなくなりました。英語をマスターするまでの道のりはまだまだ長いと強く実感しました。

次に僕たちが向かったのは、ニューカッスル大学です。ここは、森の中にある美しい大学でした。ここで、僕は主にオージー語（特に Slang）を教わりました。例えば、Hello のことを「G'day Mate」と言うこと、Newcastle のことを「Newy」、Breakfast のことを「Brekkie」と略すことを知りました。言葉を略すことが好きというところは、日本人と似ていると思いました。僕は家でこれらの言葉を使ってみると、とても喜ばれ、「You are Aussie!」と言われました。また、大学内には沢山の日本人留学生がいて、困っている僕を助けてくださいました。僕もいつか留学したいので、とても羨ましかったです。その後、ニューカッスル大学の大学生のトムとも会い、楽しく短いキャンパスライフを過ごしました。

放課後、僕たちはビーチとスケートボード場に行きました。ニューカッスルといえばビーチというほど有名で、ごみひとつない美しいビーチがずっと続いていました。でも、冬なので水はもちろん砂浜でさえ冷たく、次は夏に来たいと思いました。ですが、Newy の人たちは、夏冬関係なくサーフィンをしていたので驚きました。

8 月 18 日　担当：原田　茉優

今日はホストファミリーとの自由行動一日目。午前中は家でのんびりした。昼食は自分で作ったサンドウィッチ。具も、パンの種類も自分でセレクトしたので、とても楽しかったしおいしかった。

その後、いくつかのビーチを見に行った。どこも大きな白い波と、透き通っていて底まで見える海のエメラルドグリーン、そして波に削られてできた崖の褐色の層のコントラストがとても鮮やかで美しかった。水平線も見ることができた。MIKALI と一緒に写真を撮ったり、近くのカフェでジェラートを食べたりと楽しい体験がたくさんできた。

一日の最後にはショッピングをした。沢山お土産を買ったので、スーツケースに上手くしまえるかは不安だが、満足のいくまで商品を見て考えて購入できた。日本に帰ってみんなに渡したら、喜んでくれるかとても楽しみだ。最高・さいこー・サイコーに充実した一日だった。

8 月 19 日　担当：松岡　理

今日はホエールウォッチングに行きました。１時間くらいかけて沖に出て、１時間くらい海をさまよって、１時間くらいかけて帰ってきました。結局クジラは見えなかったです。その日はとても風が強くて飛ばされそうになりました。命の危険を感じたほどです。台風が直撃するより風は強かったです。

帰りにフィッシュアンドチップスを買って食べました。おいしかったです。

その日の夜は大きなラムを食べました。めっちゃおいしかったです。

夜にサッカーゲームをしました。他のゲームでは勝てないけどこのゲームでは勝てました。面白かったです。

8 月 20 日　担当：山田　怜奈

今日は最後の学校だった。エレノアと一緒に授業を受けることができたのは３時間目のクッキングのレッスンだけだった。でも、このクラスには初日から仲良くしてくれたサムとジョイセフと同じクラスだった。最後だから沢山話した。いろいろとオーストラリアのことを教えてくれた。お別れのときも寂しいと言ってくれて嬉しかった。サムはありがとうの気持ちが込められたコアラの人形をくれた。本当に嬉しかった。そして、メールを交換するという約束もした。

１、２、４時間目は日本語クラスだった。１時間目は折り紙とけん玉をした。マイケルはめちゃめちゃけん玉が上手だった。２時間目は、チェンシーとペアになり一緒に習字の授業を受けた。チェンシーは２回目の習字の授業だったのに、ものすごく上手だった。とても楽しかった。4 時間目は、たくさんお菓子があるパーティーだった。エレノアからプレゼントをもらったとき、少し泣きそうになった。移動時間に同じクラスで話しかけてくれた子がとても話しかけてくれた。嬉しかった。一番初めに出来た友達エラは、私のためにプレゼントと手紙を用意してくれてた。本当に嬉しかった。最後の学校は寂しかったけれど、とっても最高の日になった。

8 月 21 日　担当：中村　創真

今日は、オーストラリア最後の日でした。朝、家でホストファミリーのお父さんと弟とお別れをしました。僕が「また来たい」と言ったら、「またこの家にも来てね」と言ってくれて、とても嬉しかったです。また、学校の前でお母さんとお別れでした。お母さんも、「また来てね」と言ってくれて、とても嬉しかったです。また、バスが来たのでクーパーともお別れでした。とても悲しかったけど、クーパーが笑顔で楽しく見送ってくれたので良かったです。

コタラハイスクールでお別れした後は、バスでブロードメドウ駅まで行き、シドニーに向かいました。シドニーでは観光をしました。最初はミセス・マッコリーズ・ポイントに行きました。オペラハウスや軍港がとてもきれいに見えました。また、ミセス・マッコリーさんが座ったイスもありました。次は、オペラハウスに行きました。近くで見ると、とても大きくてきれいでした。また、ハーバーブリッジの上も歩きました。車で橋が、時々少し揺れて怖かったです。

今日はオーストラリア最後の日で、ホストファミリーや友達とお別れしてとても寂しかったです。

8 月 22 日　担当：塔野　聖夏

シドニー空港から羽田空港。羽田空港から山口宇部空港までの１１時間のフライトでした。ずっと夢に見ていたオーストラリア、長いと思っていた１０日間もあっという間に終わり寂しくなりました。

しかし、今回の研修で出会った仲間、思い出は一生ものだと思います。私のホストファミリーは、どんな時も本当に優しく親切で、私の未熟すぎる英語も一生懸命聞いてくれたり、私を毎日毎日、本当に沢山の場所に連れて行ってくれたりと多くの経験をさせてくれて感謝しかありません。一緒にホームステイに行った仲間は、本当にみんな優しくて、派遣前にこんなに仲良くなれるとは思っていませんでした。驚くほど全員と仲良くなれて、そんな仲間とたくさんの楽しすぎる思い出を作れて本当に幸せです。私は、今回の研修で学んだことをこれから生かしていきたいです。

派遣生徒報告

宇部フロンティア大学付属中学校　３年　小倉　美南

今回の研修が私にとって最初で、最高の海外渡航となりました。大好きなホストファミリーと出会い、ニューカッスルの人の温かさや優しさ、海外のノリを感じられた、とても充実したかけがえのない１０日間を過ごすことができました。

シドニーに到着し、電車に揺られ、いよいよホストファミリーとの対面。連絡が取れておらずとても不安でしたが、駅で温かく迎え入れてくれました。なかなか自分の言いたいことを英語にできず、自分の無力さにとても悔しい思いをすることがありましたが、理解できるようにゆっくり話してくれたり、最後まで私の英語を聞いてくれたりしたホストファミリーのおかげで、英語で話すことの楽しさを知ることができました。

そして、ドキドキの学校生活。登校初日にホストスチューデントのサラが友達を紹介してくれました。初めは緊張していたけれども、授業でのバスケットボールを通じて距離が縮まり、会話を楽しむことができました。また、授業にも参加し、生徒たちの授業に対する積極性にはとても驚かされました。先生が質問を投げ掛けると、生徒のほとんどが手を挙げて発表していました。

また、自分の意見と違う場合は、さらに手を挙げて主張したり、難しい問題は周囲と協力したりと、自分で解決しようとする意識の高さにとても感動しました。その中で、私は自分の意見をはっきりと持ち、それを周りの人へ主張することの大切さを改めて感じることができました。

休日には、公園や博物館、ビーチなどオーストラリアの歴史や自然の雄大さに触れ、農場ではコアラやカンガルーと触れ合ったり、エサをやったり、オーストラリアでしかできない貴重な体験をすることができました。

家では、ホストマザーのクリスがジョーンズ家オリジナル料理やオージーのコーンビーフ、シェパードパイなど、今までに食べたことのないご飯を毎日作ってくれました。また、拳玉や折り紙など、日本の遊びを一緒に楽しんだり、お皿を洗いながらダンスを踊ったり、気付けばあっという間に１週間が過ぎていました。

今回の研修を経て、もっと英語を使いたい、もっと英語で自分の気持ちを伝えたいという新たな気持ちを自分の中で発見できたし、単語量を増やし、英語を聞き取る力を鍛えるという今後の課題も見つけることができました。

慶進中学校　２年　爲佐　愛美

今回の研修で、私はかけがえのない１０日間を過ごすことができました。私は「オーストラリアの文化を自分自身で体験して学び、その学んだことをいろいろな人に共有したい」という思いで、オーストラリアに向けて出発しました。

私のホームステイ先のスコット家は８人家族でしたが、４人の兄弟は別の場所で暮らしていました。ホストシスターのパリスは３歳年上のとてもフレンドリーな高校２年生で最初は少し怖かったけれど、お互い大好きなバレエを通じて距離を縮めることができました。

私がこの研修を通してオーストラリアと日本の文化の違いをたくさん感じました。例えばオーストラリアの人々は外出するときに普通に靴をはかずにはだしで出かけるということです。パリスと街にショッピングに行ったときも、はだしで歩いている人をたくさん見ました。また、曲がかかっていると平気でスーパーの中でも踊りだします。ホストファミリーと映画を家で見たとき、気分が乗ってくると歌い踊りだしました。最初は少し恥ずかしかったけど、パリスが「一緒に踊ろう」と言ってくれたので勇気を持って一緒に踊りました。

他にもオーストラリアの学校でたくさん驚くことを見つけることができました。出発前に「校則がゆるい」と聞いていましたが、私の想像以上で驚きました。まず、授業に遅れてくる生徒が多いことです。朝一番の授業では「コーヒーを買いに行ったら行列ができていて、買うのが遅くなったの」と言って、謝ることもなく授業に参加している生徒もいました。

授業中は先生の目の前でも隣の机に人がいないと、足を机の上に乗せていました。ある英語のクラスでは担当の先生が不在ということで代わりの先生が来ていました。代わりの先生がボードに書いてあることをしてくださいと言い終わると皆、隣の人とおしゃべりを始めたり、立ち上がってどこに行くかと思ったら携帯の充電をしたりし始めました。ランチを食べだす人もいました。

しかし、この研修は楽しいことだけではなく、反省すべき点もありました。例えば英語の聞き取りに苦労した点です。普段習っているアメリカの英語の発音とオーストラリアの英語の発音はとても違いました。ａの発音をアメリカの英語ではエイと読みますが、オーストラリアの英語はアイと発音していました。そのことから、言いたいことが伝わらないこともありました。もっと発音の勉強をしていけばよかったと後悔しています。

今後の新たな目標として今回の反省点を改善し、アメリカ英語とオーストラリア英語を区別して話せるようになりたいと思います。

今度、ホストファミリーと友達が宇部に来てくれると約束したので、今回よりも宇部のことについて説明したり、楽しく会話したりできるように準備をしていきたいです。

今回の研修に携わっていただいた皆さま、このたびはこのような機会をいただき、ありがとうございました。

常盤中学校　　３年　辻　唯花

私は、今回のジュニアグローバル研修事業で初めて海外へ行きました。ホストスチューデントとは事前にメールで互いの学校生活や趣味、私の英語力について話していたので、安心してオーストラリアに向かうことができました。ブロードメドウ駅に着くと、期待していた通りホストファミリーが温かく迎えてくれました。

行って一番大変だったことは、ホストファミリーとの会話を聞き取ることでした。滞在して３日目までは英語を話すスピードに全くついて行けず、何を言われているのかほとんど分かりませんでした。でも、オーストラリアの人たちはゆっくり話してくれたり、実際に物を見せながら説明してくれたりし、分からないところは翻訳アプリも使って教えてくれて、ほとんど困ることなく会話することができました。そして、家族同士の会話を聞いているうちに少しずつ耳が慣れてきて、言われていることや質問に正しい返事ができるようになりました。

私は５日間ホストスチューデントのジョージアと妹のシャーロットと一緒に、コタラ高校に通学しました。生徒はみんなピアスを着けて、ネイルをして、おしゃれをしていました。現地の生徒に「あなたたちはなぜしないの？」と聞かれて驚きました。授業は選択制で、私は映画を演じる授業や体育、コンピューターなどを受けました。英語だけでの授業は初めてで、短縮された言葉が多く、ほとんど理解できませんでした。授業は１日４校時でした。私は家まで、いろいろな学校の生徒が乗ることのできるスクールバスで帰りました。学校やバスの中にはさまざまな人種がいて、多文化共生社会なのだと思いました。

私のホストファミリーは、放課後や休日にいろいろな場所に連れて行ってくれました。中でも一番印象に残っているのは、ビーチのそばにあったアンザックウォークです。ANZAC とは第１次世界大戦のときにニュージーランドとオーストラリア出身の志願兵によって編成された軍隊の名前で、アンザックウォークには戦争に関わって命を落とした人々を追悼してある場所がありました。毎年４月

２５日はアンザックデーで、当時国のために尽力した人々のために追悼を行うことを教えてもらいました。

オーストラリアでの７日間は私にとって一生の思い出になりました。ジュニアグローバル研修事業で行ったからこそできたこともたくさんあったと思います。このような機会を与えていただいたことに感謝しています。この経験を無駄にせず、将来に生かしていきたいと思います。今回の事業にご支援くださった皆さま、本当にありがとうございました。

藤山中学校　３年　塔野　聖夏

山口宇部空港から羽田空港を経て、豪州へ。１１時間の長いフライトでいよいよ小さい頃からの夢だったオーストラリアに着きました。飛行機からオーストラリア大陸が見えたときは、まるで異世界で、信じられない気持ちと興奮で胸が高鳴りました。

シドニーに着いて、大きくて日本には無い建物ばかりに囲まれると、海外に来たんだと実感が湧きました。私の中でオーストラリアのイメージは、草原ばかりののどかな国だったので、そこも本当に驚きました。

シドニーからニューカッスルに向かう電車の中では、もう少しでホストファミリーに会えるという楽しみと英語ばかりの生活に対しての不安で、複雑な心境でした。

駅に着くとホストファミリーが私の名前を書いた紙を持って、笑顔で駆け寄ってきてくれました。そのおかげで、張りつめていた体と心が一気にほぐれました。電車の中でみんなと考えて練習したあいさつもリラックスして言えました。

今回の派遣で私が最も楽しみにしていたのが、コタラハイスクールに通学することでした。ハイスクールの生徒はみんなフレンドリーで、たくさんの生徒が私に話しかけてくれました。私に分かるようにゆっくり話してくれたので、会話を楽しむことができました。学校で多くの人と話せて、友達になれたので良かったです。

授業中の雰囲気は自由な感じで、日本とは全く違っていることをアリスと話しました。日本庭園が中庭にあったり、日本語クラスがあったりと、日本への関心が高いことに驚きました。

休日にはみんなで動物園に行き、ピクニックをしてとても楽しい時間を過ごしました。コアラやカンガルーと触れ合ったり、オーストラリアの有名な遊具で遊

んだりしました。
　また、たくさんの有名な名所に連れて行ってもらい、ホストファミリーとの大切な思い出ができました。
　今回の研修で英語でのコミュニケーションに少し自信がつきました。私の知っている単語や英語の知識はまだ少ないけど、積極的にコミュニケーションを取ったことで、未熟な英語でも会話ができました。
　今よりも英語力を向上させて、もっと英会話を楽しみたいです。
　また、日本の良さにも気づきました。特に、食事の際の「いただきます」「ごちそうさまでした」です。普段は気にせずにやっていたけど、日本の良い礼儀作法だと思いました。
　１０月に私はホストファミリーとして、オーストラリアの学生を受け入れます。そのときには日本の良い礼儀作法や文化を伝えたいです。
　今回の研修では本当に多くのことを学べ、貴重な１０日間だったと思います。私たちにこのようなすばらしい経験をさせてくださった皆さま、派遣中に関わったすべての方々に心から感謝します。本当にありがとうございました。

厚東川中学校　３年　中村　創真

　今回僕は、初めての海外経験やホームステイで、とても貴重な体験をすることができました。出発前、僕は初めて海外に行く興奮と、ホストファミリーなど初めて会う人と話ができるのか不安な気持ちがありました。オーストラリアに着き、ニューカッスル市に移動する電車の中でも、初めて会うホストファミリーとどんな会話や生活をするのか、少し不安でした。ニューカッスル市のブロードメドウ駅に着くと、ホストスチューデントのクーパーとお父さんが待っていてくれました。会う前は不安だったけど、家に帰る途中の車内でとても楽しく、気さくに話しかけてくれて、不安な気持ちもなくなりました。また家では、いろいろな話をして、途中分からない言葉などは、優しく分かりやすい言葉に言い換えてくれたりして、すぐに打ち解けることができました。
　次の日は、初めてのコタラハイスクール通学でした。学校は日本とは違う所が多くて、とても驚きました。まず、学校内や授業中にスマホを使ってもいいということです。僕の学校では持ってくることもダメなのに、この学校ではスマホを授業中に使うことも許されていました。また、授業は７０分、４校時だというこ

と、昼食の時間はなく、各授業時間の休憩時間に食べることなど、日本と違う部分が多くとても驚きました。また、みんな身長が高く、顔も大人びているところも驚きました。

コタラハイスクールでは、とても楽しい学校生活を送ることができました。クーパーがたくさんの友人を紹介してくれて、いろいろな面白い話をしてくれました。みんな、僕が分からなかったら優しく教えてくれ、とてもうれしかったです。また、体育の授業ではサッカーをしました。自分のチームが点を入れると、ハイタッチや握手をしたりして、みんなと仲良くなれ、とても楽しい時間を過ごせました。日本語の授業では、折り紙や拳玉、習字をしました。拳玉では、「もしかめ」などをすると盛り上がりました。また、習字ではきれいに書くポイントを教えるのが難しかったけど、「GO」や「STOP」など簡単な英語で教えることができました。

休日はブッシュウオーキングをしました。お父さんが木の名前やビーチの名前など、いろいろなことを教えてくれました。行く途中の景色や高台からの眺めはとてもきれいでした。また、イルカも見ることができ、とても楽しい一日でした。

今回のオーストラリア研修はとても貴重な体験でした。オーストラリアの生活や自然、また人の優しさもじかに感じることができた１週間でした。最初の頃は「Yes」や「No」でしか答えられなかったけど、今は自分の気持ちを入れたり、話をつなげたり、コミュニケーション能力もこの研修を通じてレベルアップできたと思います。この体験を将来生かせるようにしたいと思います。

最後に、今回引率してくださった先生方、観光・グローバル推進課の皆さま方、友好協会の皆さまなど、このような貴重な体験の機会をいただき、本当にありがとうございました。

慶進中学校　２年　西原　百華

今回の研修事業で私は、日本ではできないような貴重な体験をたくさんすることができました。

その一つは、オーストラリアでホストスチューデントのミカリと一緒にコタラハイスクールに通ったことです。初日に友達をミカリに紹介されたけれど、人数が多すぎて覚えることができませんでした。でも、まずはミカリに付いて行って「英語を身近なものにする」という目標を達成するために、簡単な質問でいいから会話をするきっかけをつくろうと思いました。休憩時間にミカリと一緒にいた友達に「次の授業は何」や「お昼ご飯はいつ食べるの」などと、だんだん

とコミュニケーションを増やしていきました。すると、いつの間にか意味が分からなくても黙ることなく「それはどういう意味」や「もう一度言って」などの言葉が、自然と出てくるようになりました。初めて出会ってから数日で仲良くなり、互いの壁をなくせたことはとてもうれしかったです。

そして、二つ目の貴重な体験。それは、オーストラリアの日常生活です。この日常生活においては、日本と違う点がいくつもありました。その一つは、家に土足で上がることです。オーストラリアでは日本のように靴をぬぐ習慣はなく、家でも学校でも土足で上がっていました。日本では、学校に下足箱が設けられており、そこで上靴に履き替えるのが普通ですが、オーストラリアではそのようなことがありませんでした。でも、この違いこそが国境を越えた面白さなんだと思いました。

また、オーストラリアと日本の授業を比較してみると、オーストラリアは自由な感じで、日本の方が行儀は良いような気がしました。これも面白い文化の違いですし、日本の良さも改めて感じることができました。

また、貴重な体験とは別にもどかしさを感じることもありました。それは、相手の言うことを何度繰り返し聞いても、理解できなかったときです。私はそのとき悔しい思いをし、さらに今までの自分の英語に対する努力が足りなかったことを反省しました。そして、今回の研修で自分の英語レベルを知ることができました。だからこそ、見つけることができた今回の課題。それは、自分の英語に自信を持って話せるようになることです。

そのためにも、今回の研修で学んだことや感じたこと、さらにオーストラリアでの生活を通して貴重な体験をさせてもらったことを自分の糧とし、将来の夢の実現に向けて努力していきたいと思います。

最後になりましたが、今回引率してくださった２人の先生方、ならびに観光・グローバル推進課の皆さま、その他にも多くのご支援くださった全ての方々に心から感謝申し上げます。また、私を温かく受け入れてくださった５人のホストファミリーにも感謝したいと思います。この家族との出会いは私の一生の宝物です。ありがとうございました。

厚東川中学校　３年　野村　尚伸

このグローバル研修が初めての海外訪問となった僕は、終始感動していました。日本との共通点、相違点、オーストラリアの魅力、逆にオーストラリアに行って初めて気付いた日本の魅力、言語の大切さ、常に新しい発見をしていたように思います。小学生からの夢だったこの研修で、僕は夢のような有意義な体験をすることができました。

まず、僕はオーストラリアの学校の仕組みに驚嘆しました。まさかここまで日本の学校と違うとは思ってもみなかったので、初めは戸惑うばかりでした。第一に、とにかく自由です。音楽を聴いても、ゲームをしても遅刻をしても怒られません。次に、たくさんの国籍の人が一緒に勉強していました。何の抵抗もなく、僕を受け入れ、仲良くしてくれた背景には、オーストラリアが多民族国家で多文化社会ということがあるのではないかと思います。

もう一つ驚いたことは、とにかくフレンドリーだということです。みんなファーストネームで呼び合い、男女問わず、その場所にいる全員が友達かと思うほど優しく接してくれました。特に、先生と生徒の関係は面白く、中には友達が友達に勉強を教えているのかと思うようなクラスもありました。僕は、真面目で規律が厳しい場所が学校だと思っていたので、とても楽しかった半面、少し違和感も覚えました。

そして、日本の文化や製品が思った以上に、生活に浸透していたことにも強く感銘を受けました。僕のホストファミリーのニックとトムは、日本のクールな文化が大好きで、よく日本のアニメを見たり、侍のゲームをしたりしていました。また、日本語クラスではない生徒も、日本のアニメが大好きで、僕も知らないアニメがどんどん出てきたことにとても驚きました。僕はあまりアニメに興味がなかったので、日本の文化を誇らしく思うのと同時に、さらなる日本の魅力に気付けて良かったです。他にも至る所で日本車が走っており驚きました。ホストマザーのマリサさんに、「日本の製品が一番いい」と言われたことが、とても印象に残っています。

最後に最も感じたことは、コミュニケーション、英語力の大切さです。今まで僕にとって、５教科の中の１教科にすぎず、大変な勉強の一つでした。しかし、今回の研修で英語があまり聞き取れず、話せなかったので、もどかしい思い、悔しい思いを多くしました。ニックと２人でブッシュウオーキングを２時間以上したときも、朝の散歩をしたときも、より多くの会話ができたらなと思いました。だから、もっと英語を知りたい、学びたい、話せるようになりたいと心の底から

思いました。そしていつかまた、今回のホストファミリーや学校でできた多くの友達に会い、上達した英語力で楽しい会話ができるために、これからの英語学習に励んでいきたいと思います。

今回の研修で、僕はかけがえのない時間を過ごすことができました。僕は物事を多角的に見ることができるようになり、世界が一段と大きくなったように感じます。この研修は僕のこれからの人生の糧となるでしょう。このような有意義な機会を与えてくださった、観光・グローバル推進課の皆さまをはじめ、今回の研修に携わってくださった全ての方々に心から感謝します。

厚南中学校　２年　原田　茉優

今回のニューカッスル派遣事業において、私は数え切れないほどの貴重な体験をさせていただいた。その中で、特に私を成長させてくれた体験を、大きく二つ紹介しようと思う。

まず、多文化、多民族の社会に触れることができた体験について紹介する。オーストラリアを訪れて、感じたのは文化や民族の種類の多さだ。シドニー空港にも、街中にも、コタラハイスクールにも、多くの文化と民族があふれていた。このことについて、一つ例を挙げる。シドニーやニューカッスルで訪れたフードコートについてだ。そこには、アメリカ発祥の店をはじめ、日本料理、中華料理、韓国料理、タイ料理、インド料理、メキシコ料理など世界中の料理店が集まっていた。私はそこでメキシコ料理やタイ料理など、めったに食べることのできない料理を存分に楽しむことができた。だが、最もおいしいと感じたのは日本料理だ。やはり日本人の私には、日本の味付けが一番合っているのだと感じた。またそれと同時に、オーストラリアにいる、世界中からの移民や留学生たちも、母国料理を愛しているのだと気付いた。オーストラリアでは、その愛すべき母国料理を多くの人が簡単に食べることができる。これは他民族に対する思いやりから成り立ったのではないだろうか。多くの民族が互いを尊重し、思いやる社会を体験したことで、私も人を尊重したり、思いやったりすることの大切さに改めて気付くことができた。

次に、人との接し方についての体験を紹介する。私は、ホストシスターのミカリに連れられて、ダンスパーティーに参加した。私はその種のダンスは未経験で、いささか不安もあった。しかし、それを解消してくれたのは、ミカリとその友達、そしてパーティーの参加者だ。初めに一緒に踊ってくれて、ダンスの基本を教え

てくれたミカリ。たくさん話しかけてくれて、笑顔にさせてくれた友達。パートナーが見つからずに困っていると、誘ってくれた参加者。私がパーティーを楽しめたのは、彼らのおかげだ。そして、彼らに共通しているのは、積極的な点だ。人に何かを教えたり、話しかけたり、誘ったりするときに、私はいつもためらってしまう。恥ずかしいとか、面倒くさいといった思いを、コミュニケーションよりも優先してしまう。しかし、人を幸せにしたり、一緒に楽しんだりするためには、積極性は不可欠だと悟った。

このパーティーの後、私はホストファミリーに自分から話しかけるようになった。帰国してからも、友達や家族と前より多く話すように心掛けている。この体験を将来に役立てるため、これからも前向きに英語学習に取り組みたい。

宇部フロンティア大学付属中学校　２年　松岡　理

この研修が僕にとって初めての海外でした。この１０日間で僕は、多くのことを学んだり感じたりしました。

その中でも特に印象深いのは学校生活です。授業の数は、僕の学校では５０分授業が６、７校時あります。授業の間の休憩は１０分と、お昼ごはんです。しかしオーストラリアの学校は７０分が四つ、間の休憩は１５分や３０分など複雑で、ホストスチューデントのハモに聞いてもあまり把握していませんでした。学校が終わるのも３時ごろ。部活動ではなく、各自がさまざまなクラブに所属していました。授業中でもイヤホンを着けて授業を聞いていたり、ゲームをしていたりと、日本では考えられないような授業でした。

もう一つ、僕はオーストラリアに行って大きな衝撃を受けたことがあります。それは接客です。日本の店員さんは、おじぎをして、丁寧な言葉で接してくれます。しかしオーストラリアは違います。物を食べながらだったり、クロスワードをしながらだったりしました。そんなことを日本でしたら大問題です。ですがオーストラリアでその光景を見ても、あまり不思議に思いませんでした。多分その時はもうオーストラリアの生活に慣れきっていたからかもしれません。

この研修で僕は、オーストラリアの良さをとても感じました。多くの人がフレンドリーだったり、学校の授業が楽だったり。しかしそんな中、日本の良さを多く発見することができました。商品の置き方は日本の方が丁寧だし、ご飯も日本の方がおいしいです。派遣前に多くの方が言っておられた日本の良さは、派遣前には分かりませんでした。しかし今は日本の良さ、宇部の良さに気が付くことが

できました。とてもよい経験になりました。

最後に、僕にはオーストラリアである大きな出会いがありました。それはシドニーで僕たちを案内してくれたバスの運転手の方です。中村善好さんという方で、その方はとても話がうまく、すごく憧れています。でも僕にとっては、とてもすごいバスの運転手さん、もう忘れることはありません。しかし中村さんにとってはただの客の一人、覚えていてくれると思いません。けど一日でも長く覚えていてもらいたかったので３月１４日はさとしの日、円周率は僕の数字などと言っておきました。これで一生覚えていてもらえるとは思いません。もう忘れているかもしれません。けれど中村さんのことを僕は一生忘れません。中村さんとまた会えることを願っています。

黒石中学校　３年　山田　怜奈

今回のジュニアグローバル研修が、私にとって初めての海外でした。

約９時間という時間を経て、私たちはシドニーに到着しました。飛行機の中では、うまく英語が話せるかな、ホストファミリーと仲良くなれるかなという不安と初の海外！現地の英語に触れられる！という、ワクワクした気持ちが交じっていました。この気持ちは、ホストファミリーに会う時間が近づくにつれ、大きくなっていきました。しかしそんな不安を抱く必要もなく、とても温かい家族でした。私はモアーさんというお家にホームステイをしました。ホストシスターであるエレノアはお父さんとお兄ちゃんと一度、日本に来たことがあったらしく、たくさんの話を聞かせてくれました。日本が大好きらしく、私もうれしかったです。

ホームステイ中には、学校にも通いました。学校は想像以上に自由で、でもこれも異文化かと思い、日本ではできないような学校生活を過ごしました。学校生活で私はたくさん驚くことがありました。特に驚いたことは二つあります。一つは、１時間目と２時間目の間にモーニングティー、３時間目と４時間目の間にアフタヌーンティーがあることです。この時間は、自分が持ってきたおやつを外に出て、友達と話しながら食べるとい時間です。こんな時間があることに、とても驚きました。また、リンゴをよく食べたのですが、リンゴは丸かじりをするのが主流なことにも驚きました。

二つ目はシャーペンは使わずに、鉛筆かボールペン、ノートではなくパソコンでした。これにも、ものすごく驚きました。学校ではさすがオーストラリア人、

みんなとてもフレンドリーでたくさんの人が話しかけてくれました。また、エレノアはすごく人気者で、たくさんの人を紹介してくれました。休日は友達１６人と遊び、とても優しく面白い友達に出会うことができました。最後の日、４時間目の授業が終わるのを待ってくれていて、わざわざ「バイバイ」と言いに来てくれた人もいて、とてもうれしかったです。

最後に、私はこの１０日間、本当に充実し、ためになる日々を過ごせました。また、現地の英語に触れることによって、自分はまだまだだと実感しました。今回研修したことによって、もっと英語がしゃべられるようになりたいと思ったし、外国の異文化にさらに興味を持ちました。またこのような機会があるならば、もっともっと勉強して、オーストラリアにもう一度行きたいです。本当に温かい家族、たくさんの友達に囲まれ、最高の時間を過ごすことができました。このたくさんの出会い、経験に感謝です。本当にかけがえのない思い出をつくることができました。今回の出会いを大切にし、これからもエレノアとは連絡を取り合いたいと思います。今回経験したことは、これから自分の人生につなげていきたいと思います。平成最後の夏、私はとてもいい経験ができました。

宇部市教育委員会　学校教育課長同格　三原　洋一

昭和５５年度の姉妹都市調印式から３８年、青少年交流についても、昭和６１年度から３２年となるニューカッスル市との交流の中、今年度も市内７校から派遣生１０名、引率者２名がジュニアグローバル研修に参加し、派遣生の著しい成長の姿を大きな成果としながら１０日間全ての日程を予定通り終えることができました。

引率としまして、何よりうれしいことは、どの生徒も体調を壊すことなく、現地でのトラブルもなく、楽しく充実したニューカッスルでの生活を終えられたことです。この大変優秀な１０人の生徒は、素敵な人間性も備えており、宇部市の代表として立派に役目を果たせたことを報告いたします。また、この現地研修の間、事前事後研修も含めて、宇部市のみなさん、姉妹都市友好協会のみなさまはもちろん、多くの関係機関の方にご支援ご協力いただいたことに深くお礼を申し上げます。

オーストラリア、ニューカッスル市での１０日間の現地研修では、真冬でありましたが、例年になく暖かい陽気で、昼間は２０℃程度あり、空気の乾燥を除けば、大変過ごしやすい天候に恵まれました。また、ニューカッスル市、コタラハイスクールの皆様、そして、ホストファミリーの皆様の温かなホスピタリティーにも恵まれ、生徒一人ひとりが、生き生きと前向きに研修を進められたことは、何よりの成果であったと思います。

初日、ニューカッスルの駅に着くまでは、「ホストがどんな人なのか会うまでは胸が苦しかった。」と、不安を漏らしていた生徒たちでしたが、言葉の違いや文化の違いの壁をものともせず、それぞれのホストファミリーにすぐに馴染み、自分のもつコミュニケーションの力をフルに発揮し、積極的にコミュニケーションをとろうと頑張っていました。

空も海も空気も、そして人々も大変美しいニューカッスル市にあっても、派遣生は、一人一人が、初めて会う文化も言葉も違う家庭の中へたった一人で飛び込むわけですから、日々の生活体験は、緊張の中にも、多くの発見や驚き、感動に満ち溢れていたことと思います。彼ら一人一人の心に刻まれたこの貴重な体験は、これからの彼らの人生に大きく影響する大きな財産となったことと確信しています。

どのホストファミリーも、コタラハイスクールも、そして、ニューカッスル市も大変丁寧に生徒たちを受け入れていただきました。宇部市とニューカッスル市との友好親善が深まっていることを感じました。現地の皆様のボランティア精神とおもてなしの精神に心から感謝をしたいと思います。

また、観光・グローバル推進課の皆様のサポートのお陰で、クレアシドニー事務所、ニューカッスル市役所、ニューカッスル大学ランゲッジセンターに予定通り訪問することができ、派遣生徒たちとともに、研修を深めるとともに、宇部市

をしっかりとアピールしてまいりました。生徒たちと毎日通わせていただいたコタラ・ハイスクールでは、派遣生徒の様子を見た校長から、「Very good students !」とお褒めの言葉をいただきました。引率者として、大変誇らしい思いがしました。

最後の日には、ハイスクールの前でバスに乗り込む前に、ホストファミリーが、派遣の生徒をハグしながら別れを惜しんでおられ、派遣生徒も、ホストの保護者や一緒に過ごした生徒と涙の別れをしていました。いずれにしても、この短期間で、日豪の国を超えてお互いの心が通い合ったことがわかりました。

また、生徒たちは、帰りの列車や飛行機の中で、「ホストファミリーに会いたい。」「帰りたくない。」「将来は、オーストラリアに住みたい。」「どうしたら、オーストラリアで暮らせるの。」と、口々に話していました。それぞれが、充実したホストファミリーとの生活を体験し、心を通い合わせ、一人一人が大きく成長したことは間違いありません。

本研修の成果としては、まず、１０人の派遣生徒たちが、オーストラリアという文化や習慣の違う他国の生活の中に飛び込み、積極的にコミュニケーションをとり、相互理解を深めることができたことです。

また、クレア（自治体国際化協会シドニー事務所）を訪問した時には、「どうしたらクレアで働くことができますか？」という質問が出るなど、海外で活躍する日本人に触れ、将来、海外で働きたいという強い思いが膨らんだ生徒もおり、彼らの今後のビジョンに大きな影響を与えたことが挙げられます。

さらには、帰国後の研修会で個々の目標について達成状況を発表したのですが、その中で、一人の生徒が『僕にとって英語はただの教科ではなくなりました。もっとしっかり勉強して、英語を話せるようになりたいです。』と、話していました。これからの国際人として、英語の力がつけば、多くの人とより深いコミュニケーションがとれることを、身をもって体験したからこそ出た言葉ではないでしょうか。私は、大変うれしく思いました。

今、宇部市教育委員会では、宇部市の子供たちに「使える英語」を身につけさせることを大きなねらいとして、オンライン英会話や AI ロボットを活用した英語の授業等を実施しています。これらの施策が、この生徒たちの思いをしっかりと受け止め、将来の宇部市を、そして日本を担う彼らの学びの一助となることを願っています。

最後になりますが、この貴重な機会を与えてくださった、久保田市長様、宇部市・ニューカッスル市友好協会のみなさま、観光・グローバル推進課はじめ関係の皆様に厚くお礼を申し上げ帰国のご報告とさせていただきます。

宇部市立楠中学校　教諭　池田　有紀子

１．　はじめに

ニューカッスルへの生徒引率は今回が２度目であり、以前引率した生徒が帰国時に見せた充実した表情を今でもはっきりと覚えている。中学生という多感な時期に海外へ出かけ、その国の人々や文化に直接触れることは、言語習得の面だけでなく、その後の自己形成にも大きな影響を与えるものである。とは言え、このような経験ができる中学生は決して多くはない。今回の派遣生がいかに素晴らしい機会に恵まれたのかということを心に留め、そのチャンスを最大限に活かしたよい研修ができるよう支援することが私の役割であると自覚し、生徒と共にオーストラリアへと出発した。

２．コタラハイスクールでの研修

生徒がホストスチューデントと通学したコタラハイスクールは、日本で言う中学１年生から高校３年生までが通う学校で、様々な教科の授業が行われている。生徒はホストスチューデントの受ける『歴史』や『体育』、『コンピュータ』などの授業に参加した。実際に授業に入ることで、日本の中学校との共通点や相違点を数多く発見できたようである。また、授業以外でも、ホームルームがないため毎朝校庭で出欠確認が行われたり、休憩時間には自由に飲食ができたりと、オープンな雰囲気に最初は戸惑いながらも、すぐに適応していた。また、日本語クラスの生徒が集まった際、担当のリザ先生が「日本に行ったことがある生徒は手を挙げて」と尋ねると、約２０名いた生徒のうち半数以上の生徒が手を挙げた。宇部市を訪問したことのある生徒も数名おり、よい友好関係が築かれていると感じた。

３．ニューカッスル市長訪問

ニューカッスル訪問２日目の午後、ニューカッスル市役所を訪問した。事前研修で生徒たちはプレゼンテーションやアトラクションの準備をくり返し行っており、いよいよそれらを披露する場となった。まず宇部市の PR プレゼンテーションを行ったが、現地の方々がとても熱心に聞いて下さり、宇部市の魅力をしっかりと発信できた。その後、リコーダーで『エーデルワイス』を合奏し、最後に輪になって『南蛮音頭』を踊った。どのパフォーマンスも大変喜ばれ、お褒めの言葉をいただいた。今回の研修事業の目的のひとつである友好親善に貢献できた。

４．ホームステイ

ニューカッスルでは、生徒も引率教員も現地の家庭でホームステイをし、オー

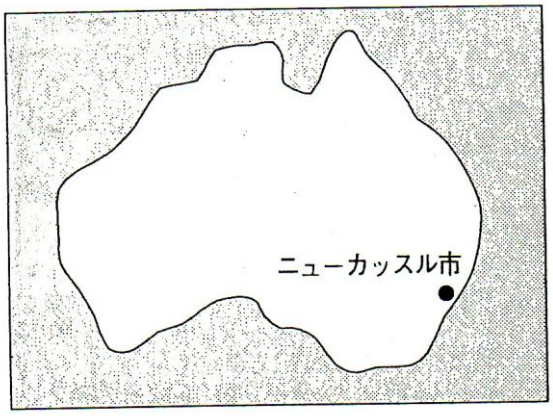
ストラリアでの生活体験を行った。ホストファミリーの細やかなサポートのお陰で、大きな病気や事故もなく、皆快適にニューカッスルでの生活を送ることができた。ホームステイをして感じたことは、オーストラリアの生活には『ゆとり』があるということだ。日本の中学生は忙しく、放課後は部活動、夜は塾通いと、ゆっくり家族と過ごす時間を持てない生徒も多い。しかし、オーストラリアの多くの学校は午後３時過ぎには授業が終わり、そこからは家庭で過ごす時間となる。家族でスポーツをしたり、一緒に買い物に出かけたりと、夕方の時間が充実していることが強く印象に残った。また、コタラハイスクールの教員も仕事を終えるとすぐに帰宅し、家族との時間を大切にしていた。昨今、学校現場でも『働き方改革』が叫ばれているが、生活の豊かさとは何なのかを改めて考えさせられる経験となった。

５．おわりに

『百聞は一見にしかず』という言葉のように、今回の研修で派遣生が自分の目で見て、肌で感じたことは、どの本にも書いていない自分だけの大きな学びであり、一生の財産となるものである。苦労しながら自分の意思や知識を伝えた経験こそが、さらなる英語力向上への動機付けとなり、国際人としての礎となる。派遣生が日々たくましく成長する姿を間近で見ることができ、私自身も英語科教員として多くのことを学び、新たな課題も見つけることができた。帰国時に見せてくれた派遣生たちの晴れやかな表情を思い出しながら、これからも英語教育に真摯に取り組んでいきたい。

最後になりましたが、今回このような素晴らしい研修の機会を与えてくださった宇部市、宇部市観光・グローバル推進課、宇部市・ニューカッスル姉妹都市友好協会、宇部市教育委員会、そして、研修事業に携わってくださった全ての皆様に心から感謝いたします。

ニューカッスル市の概要



ニューカッスル市は、オーストラリアの南東部、ニューサウスウェールズ州の東海岸部中央に位置し、シドニーの北東約 160ｋｍにあるハンター地方の首都で、人口約 15 万 5 千人（2009 年現在）、気候は温暖で、州内第 2 の産業都市です。

かつては、市内でも採掘されていた石炭は、製鉄所や造船その他の関連工業を興し、臨海産業都市として発展してきました。

市の北西約 100ｋｍの背後に広がる豊かなハンター炭田は、オーストラリアで最初に開発された歴史を持っています。

石炭による豊富な電力により、近年はアルミニウムや車両、化学製品などの産業が興っています。また、ハンターリバー流域は、農業や酪農が盛んであり、特にハンターワインは有名です。

市の中心部には、大学を始め高い水準の教育、文化、体育施設があり、さらに、美しい港、公園を有する都市で、毎年 200 万人の観光客が訪れます。

姉妹都市提携の背景

昭和 54 年（1979 年）3 月に定められた宇部市総合計画基本構想において、「国際社会の調和ある発展に寄与し、姉妹都市提携による総合的な交流を展開する」ことを掲げ、9 カ国 21 都市を候補として、調査・検討を進めました。

一方、市内主要企業においては、昭和 51 年（1976 年）以来石油にかわるエネルギーとして、石炭をオーストラリアから輸入し、経済交流が続いていました。

このような情勢の中で、昭和 55 年（1980 年）7 月、22 人の市民有志による豪州親善視察団が、オーストラリアの数都市を視察調査し、帰国後、姉妹都市としてニューカッスル市が最適である旨の報告が提出されました。

その後、種々検討のうえ、同年 9 月、市議会の賛同を得て、ニューカッスル市との姉妹都市を決定し、11 月 21 日にニューカッスル市において調印式を行いました。

主な交流経過

姉妹都市提携以来、教育・文化、青少年、スポーツ、経済等幅広い交流を行ってきました。この間、昭和 60 年（1985 年）には、宇部市・ニューカッスル市姉妹都市友好協会が設立され、市民レベルの交流が活発に展開されるようになりました。

青少年交流については、昭和 61 年度から高校生研修派遣、平成 3 年度から中学生研修派遣が実施され、交流の重要な分野の一つとなっています。

文化交流については、これまで提携 10 周年、15 周年、20 周年、25 周年、30 周年といった節目の年に文化訪問団を派遣し、交流を深めています。

宇部市観光・シティプロモーション推進部
観光・グローバル推進課

〒755-8601　宇部市常盤町一丁目７番１号
ＴＥＬ　０８３６－３４－８１３７
ＦＡＸ　０８３６－２２－６０８３
E-mail kokusai@city.ube.yamaguchi.jp